



偽装，擬態，両眼立体視

高橋 晋也（心理学）

先日、スーパーで買ってきた冷凍エビのパッケージに‘flesh shrimp’の文字を見つけ、「また何とも恥ずかしいミスだな…」と笑いました。当然、‘fresh shrimp’の間違いかと。それを面白半分に妻に話すと、「いや、意外にまんまかもよ」と言われ、しばし黙考。…そうか、冷凍品を‘fresh’と表示したら例の食品偽装か。だから、あえて不正を避け、しかも大半の庶民には違和感なく‘フレッシュ’と読ませているのか。…恐るべし食品業界。（ただし、真偽不明）

「偽装」は英語では camouflage ですが、動物が、自衛や攻撃のために、からだの色や形を周囲に似せる擬態（隠蔽的擬態；mimesis）も、一般にカムフラージュと呼ばれます。コノハチョウや、カレイなどの海底魚がよく知られていますね。長い進化の過程でこれらの動物は擬態を巧妙化させ、一方これを捕食する動物は擬態を見破るための視覚機能を獲得してきました。すなわち、自然界での「偽装」はまさに命がけの営みなのです。

戦車を迷彩色に塗り枝葉で隠すなども軍事用語で偽装（camouflage）と呼ばれます。自然界での攻防と同様、こちらのカムフラージュもそれを見破るための努力がなされるわけですが、かつては、有効な対策の一つとして航空機から地上の立体写真を撮っていたそうです。（少し違う角度から2枚の写真を撮り、現像後に両眼立体視する。原理的には3D映画と同じです。）いくら平面の模様をカムフラージュしても、戦車の立体形状までは隠しきれないということです。単眼では気付けない偽装も、両眼ではたやすく見破れる。真実を見極められるよう、一つの視点だけに頼らず、つねに複数の視点から物事を立体的に見たいものです。



ダルメシアンを見つけられますか？

目標は言語の生得的特性の解明！

研究室紹介—File05

研究室名：英語学研究室

人間には生まれながらに備わっている生得的能力があり、言語を使用する能力の少なくとも一部はその種の能力であると考えられています。例えば、よく似た When did you say that you hurt yourself? と When did you say how you hurt yourself? という疑問文に対して、前者では言った時間とけがをした時間という2通りの答えが可能ですが、後者では言った時間のみが適切な答えとなります。

英語を母語とする子供であれば、周りの大人から教えられることなく、この2つの疑問文に対して正しく答えられるようになります。また、同種の疑問文に対する答え方の違いは英語以外の言語にも見られます。したがって、



研究室合宿のひとこま

この違いには生得的かつ普遍的な能力が関与していると考えられます。このような能力は音韻、形態、文法、意味など言語の様々な側面において多数発見されており、近年の英語学ではこのような能力が英語のどこにどのような形で現れているのかを研究しています。

英語学研究室では、難解な理論言語学の英文テキストの精読の授業を通して、上記の研究の手法を学びます。毎回予習復習が大変ですが、このおかげで英文読解力や論理的思考力がかなり鍛えられます。また、英語史の授業では英語が辿った歴史的変化やその原因を学ぶこともでき、英語に対する知見がさらに深められます。卒業論文を書く際には、多くの論文を読み、英語母語話者やコンピュータを通してデータを収集し、理論的にそのデータを分析することが必要となります。大変な作業ですが、苦勞する分、やり遂げた時の達成感は格別ですし、この経験が将来の大きな財産になるのは間違いありません。

[玉田 貴裕 (博士課程後期課程3年)]

研究室紹介—File06

「世界の中の日本」を学ぶ

研究室名：日本文化学研究室

いま映画や小説、マンガをはじめ、日本の文化が世界的に注目されています。「カワイイ」という言葉が世界中に広まったり、漢字がクール！で人気があるなど、日本語への注目度も高まっています。そんな日本の文化を幅広い視野で学べるのが、この日本文化学研究室です。

〈どんな研究をしているの?〉

学生が研究しているテーマは、夏目漱石やミステリー文学、映画で使われている音声、日本で作られた翻訳語などさまざま。週に1回、研究室の教員・学生が一堂に集まる授業では、分野の壁を越えて議論を交わします。いろんな視点からの意見が聞けるので楽しい!

〈研究生活は?〉

普段の研究は、自分のペースで思う存分できます。学生が自由に使える部屋があり、そこで他の学生と研究について相談し合うこともできますし、コーヒーを飲みながら雑談をしてくつろぐことも。学生同士仲が良いので、家にいる気分ですらリラックスできます。また、自主的に読書会を開いたり、京都や奈良でフィールドワークを行ったり、学生が中心となって企画する活動も盛んです。

〈ここがポイント!〉

そして何より、世界中で関心を持たれている日本文化だけあって、留学生も多く在籍しています。留学生と話をしていると、他の国との文化の違いがわかって面白いですし、国際的な視点が身につきます。まるで日本にいながら留学しているような環境を味わえます! 留学生が自分の言語を教えてくれる語学教室も開いているので、高いお金を払って語学教室に行かなくても語学力を伸ばせます(笑)

日本の文化をより深く理解し、これまでの、そしてこれからの日本の文化を考える。国際性が重視されている今日、改めて日本の文化を見つめてみませんか?

[羽山 慎亮 (博士課程前期課程2年)]



研究室主催のセミナーの様子

旅立ちの季節です

大学の卒業式は中学や高校に比べてずっと遅く、名古屋大の場合は3月25日です。この時期、大学の行事も慌ただしく立て込んでしまっており、次年度に向けての学生ガイダンスが同じ週には始まってしまいますので、教員は卒業生を無事送り出した余韻に浸っていることもできません。それでも、これで一区切り。新天地を求めて職場を離れる教員の方々も含め、名大文学部から旅立って行くみなさんにすばらしい未来が訪れますよう! (U記)

最近の文学部